

視聴覚教材及び情報機器を活用した 授業の方法についての考察

伊藤 昭博

A study on how classes utilize audio-visual aids and information equipment

Akihiro ITOH

【要 旨】

視聴覚教材 I、II の授業において視聴覚教材及び情報機器の活用法や、その効果について実践を通して学んだ学生たちが作成した指人形及び舞台と手作り絵本の制作プロセスを記録した写真を解説に交え、視聴覚教材における授業の方法について考察する。視聴覚教材は学生が制作を行う教材作成をいかに保育、教育の現場で効果的に活用できるのかが重要である。そのためには、学生自らの表現力や教材を制作する目的や意味を考える必要がある。学生が制作し、クラス全員に向けて発表した指人形劇や手作り絵本の読み聞かせにおいても、個人の制作物として完結するのではなく、他者へいかに効果的に伝えることができるのか視聴覚教材の役割や今後の課題について問題提議をしながら授業を展開していった。また、作成した視聴覚教材を授業内容に応じて、いかに活用できるか、機材の操作方法や効果的な使用方法について考察する。

【キーワード】

視聴覚教材 絵本 紙芝居 人形劇 情報機器 授業の方法

はじめに

幼稚園や保育園で使用されている視聴覚教材として絵本や紙芝居、人形劇等があるが、実際に使われている教材は市販のものが多くと思われる。それらを使用する際、気をつけなければならないことは、対象年齢に応じた教材の選択や子どもたちの生活に即した題材選びが重要になってくる。また、絵本の読み聞かせの際にも

棒読みにならず、感情を込めて、子どもたちの表情を汲み取り、臨場感を感じてもらいながら進めていくことが大切である。これらのことを踏まえ、視聴覚教材 I、II では、実際に絵本の読み聞かせを学生たちに実践してもらい、人前で発表することの難しさを体験することで、表現方法や技術を学んでいけると考える。また、学生たち自らが作成した人形劇や絵本を映像機器で映し出し、お話をするすることで、いかに子どもたちに伝わっていくのかを発表を通して学ん

でいく。今回、著者は、視聴覚教材Ⅰ、Ⅱの授業で行っている内容について、具体的な指導法を説明しながら、学生自身が授業の中でどのように理解し、シラバスにある到達目標に達したかを考察する。まず、視聴覚教材Ⅰ、Ⅱのシラバスに記載している講義の概要及び到達目標は、以下の通りである。

視聴覚教材Ⅰ

1、講義の概要

保育士養成においては、「保育内容・方法、理解」に関する科目であり、幼稚園免許においては、「教育課程及び指導法に関する科目のうち教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」科目である。視聴覚教材のもたらす教育的効果や制作方法を学ぶ。「教育の方法及び技術」として参考になる絵本や紙芝居にどのような作品があるか理解し、自ら指人形や舞台などを制作して発表することを通して基本的な技法や表現力を高める。また「情報機器及び教材の活用」としてICT機器の活用の方法と技術について、実践を通して理論的に学んでいく。

2、到達目標

- 視聴覚教材としての絵本や紙芝居の有効性について理解し、読み聞かせ等の実践ができるようになる。
- 子どもの視点にたって指人形や舞台を制作し、基本的な技法を身に付け、指人形劇として発表ができるようになる。
- 自ら制作した視聴覚教材を、効果的に活用できるようにになる。また、ICT機器の活用の方法と技術について理解し、実践ができるようになる。

視聴覚教材Ⅱ

1、講義の概要

視聴覚教材Ⅰで学んだ教材の活用法を元に、「教育の方法及び技術」として参考になる視聴

覚教材にどのような作品があるか理解し、絵本制作における表現技法を分析し、自らの手作り絵本の制作に応用することで、様々な技法を理解し表現力を高めていく。制作した手作り絵本は、映像機器を使用した発表を行う。

また、「情報機器及び教材の活用」として動画作品の制作を行い、発表を行うことで、視聴覚教材のもたらす教育的効果や制作方法を学ぶ。

2、到達目標

- 絵本制作における表現技法を分析し、自らの手作り絵本の制作に応用ができるようになる。
- 子どもの視点にたって手作り絵本を制作し、基本的な技法を身に付け、映像機器を活用した発表ができるようになる。
- 自ら制作した視聴覚教材を、効果的に活用できるようにになる。また、視聴覚教材Ⅰで学んだICT機器の活用の方法と技術を応用し、実践ができるようになる。

視聴覚教材Ⅰの授業内容

視聴覚教材の種類及び教育的効果について
絵本、紙芝居の有効性について
絵本、紙芝居の読み聞かせ実践1
紙粘土による指人形制作
指人形に着彩
指人形の舞台制作1～2
指人形劇のシナリオ制作
指人形劇の発表

視聴覚教材Ⅱの授業内容

視聴覚教材の活用と実践
絵本制作における表現技法について
手作り絵本の制作1～4
手作り絵本の発表（映像機器使用）
視聴覚教材におけるICT機器の活用について
ICT機器を活用した教育実践1、2
映像機器を活用した動画作品の制作1～3
制作した動画作品の発表

以下、授業内容について、写真を交えながら解説を行う。

視聴覚教材 I の授業内容

「聴覚教材の種類及び教育的効果について」では、保育、教育の現場において、どのような種類の視聴覚教材が活用され、それらは、子どもたちの情操教育にどのように役に立っているのかを、具体的な資料を元に解説し、効果的な活用法についてグループワーク（4～5人）を行い、学生たち自身で実際に発表をしてもらった。

「絵本、紙芝居の読み聞かせ実践1」では、絵本「あらしのよるに」をページごとに撮影したものをパソコンのパワーポイントに取り込み、プロジェクターで投影したものを、学生たちにリレー方式で読み聞かせを行ってもらった。声のトーンや大きさ、間合いの取り方など、気が付いたところのアドバイスを行うことで、学生自身の表現力がどのように変化するかを観察した。読み聞かせの場合、どうしても、棒読みになってしまう学生が多く見受けられた。これは、聞く側にどのように伝わっているのかといった客観性がないことが、ひとつの要因として考えられる。例えば、学生のレポート等においても、文字が小さく、薄いものもあり、読む側にとって、どのように伝わっているのかまで考えが及んでないケースもある。表現することは、自分自身が他者との関係を意識しながら、成立するものであり、そこには客観性を持ち合わせるが必要になってくる。

「紙粘土による指人形制作」では、はじめに指人形の参考例を見せながら、いろんなイメージ（動物などの生き物だけではなく植物や物などを擬人化したものでも可能）で3体の指人形のスケッチを描いてもらうように伝え、出来上がったイメージスケッチを元に紙粘土で指人形の制作を行った。

制作過程は以下の通りである。

1. 紙粘土を8等分したものの1個を水分を含ませながら手でこねていく。(写真1)



写真1

2. こねた紙粘土を丸くしたものをハンバーグ状に厚さ1cmに潰した時に側面にヒビが入らない状態が柔らかさの目安になることを伝える。(写真2)



写真2

3. 直径10cmほどのハンバーグ状に潰した丸い形状を長方形の形状に成形し、利き腕でない方の人差し指に紙粘土でひと巻きする。(写真3)



写真3

4. 人差し指に巻いた紙粘土の先の方を閉じ、人形の土台を作る。(写真4)



写真4

5. 土台を元に作りたい形に成形していく。一体型でない場合は、土台部分を胴体にし、頭部部分は別に接着剤で固定する。その際、補強として針金等（竹ひご、つま楊枝）を紙粘土に差し込むことで強度を増すことができる。また、針金等は、乾燥後、折れやすい箇

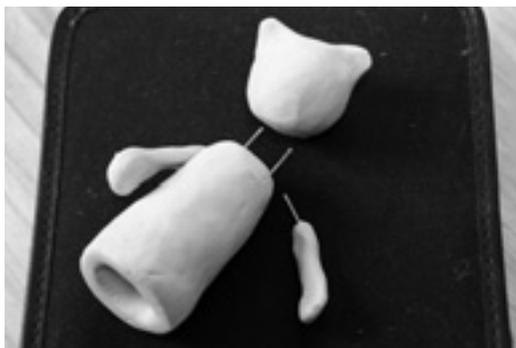


写真5



写真6

所に差し込むこともできる。(写真5、6)

「指人形に着彩」では、事前にアクリル絵具の特性を説明（先にベースとなる色を塗り、乾燥後、違う色合いの模様や文字などを上から塗ることができる）し、1週間ほど乾燥させた指人形にイメージスケッチしたものを元に着色していく。(写真7)



写真7

「指人形の舞台制作1～2」では、完成した3体の指人形の舞台を制作する。舞台はティッシュの箱と同じ形状で箱の上部には光を取り込むための長方形の穴と下部には指人形を動かすための幅1cmほどの長方形の穴が開いている。舞台の箱の展開図を元にイメージスケッチを描いていく。(写真8) イメージスケッチができれば、工作用紙に展開図の作成をし、舞台の背景の絵を描き込んでいく。絵は展開図の上部、下部、側面にも描き込む。



写真8

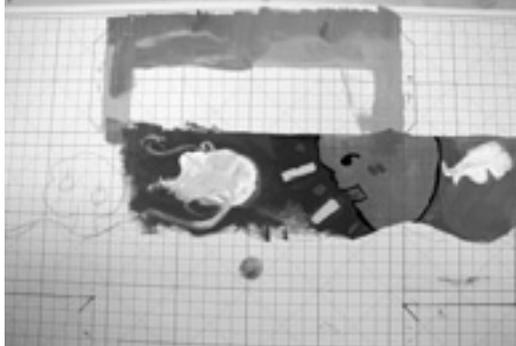


写真9

(写真9) 内側の絵が完成したら、展開図の形に沿ってハサミとカッターナイフで切り抜く。のりしろ等の折る部分はカッターナイフと定規を使い、軽く切り込みを入れることで、折り曲げる箇所を美しく折り込むことができる。

(写真10)

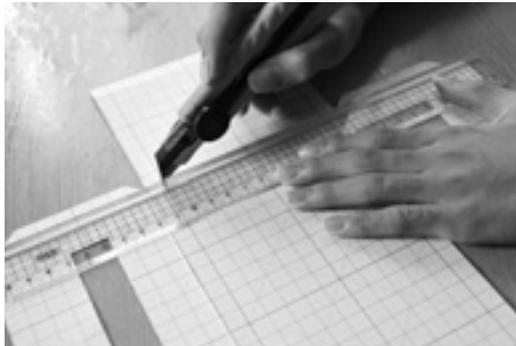


写真10

箱の組み立てが完了後、外側の面に内側の絵と関連付けてデザインを施す。(写真11)



写真11

最終的に一人、3体の指人形と1個の舞台が完成する。(写真12)



写真12

「指人形劇のシナリオ制作」では、4～5人のグループを組んでもらい、それぞれの舞台をつなげて、人形劇のシナリオを作成する。本来、人形劇のシナリオが先にあるが、その話の中に登場する役の人形や背景になる舞台が作られていくのであるが、このカリキュラムでは、逆のアプローチからシナリオ作成につなげていく試みである。人形劇の指人形は、学生一人ひとりが、劇のお話を作ろうとして制作したものではなく、思いつくままにイメージしたものである。舞台は指人形の存在する世界を表現したものである。シナリオ制作はこれらの素材をいかに、つなぎ合わせて作っていくのが重要である。グループでの舞台の順番を変えることで、他のお話に展開もでき、様々な視点からシナリオを考えることが可能になる。

視聴覚教材Ⅱの授業内容

視聴覚教材の活用と実践

「絵本制作における表現技法について」では、絵本作家エリックカールの「はらぺこあおむし」や「パパ、お月様とって」を実際に見てもらい、どの様な表現技法で制作されているのか解説を行った。エリックカールの技法は、最初にいろんな色を抽象的に紙に描き、偶然にできた形や色合いをイメージに沿って、切り取った形をコラージュすることで、独創的な表現になっている。(写真13、14)



写真13



写真14

「手作り絵本の制作1～4」では、エリックカールの技法を部分的に参考にした内容で下記のような手順で制作に取り組んでもらった。

1. 学生一人ひとりにアクリル絵の具12色の中から、組み合わせが美しいと思う4色を選んでもらう。(写真15)



写真15

2. パレット上に1色ずつ出した色を平筆に水を含ませ、画用紙の右端から1本1本、異なる

る色を3分の1ほどの幅で重ねるように縦に線を描いていく。その際、1本の線が上から下まで途切れないように筆圧を調整しながら、異なる色が重なった部分に新たな色が浮かび上がる色の濃さになるようにする。

(写真16)

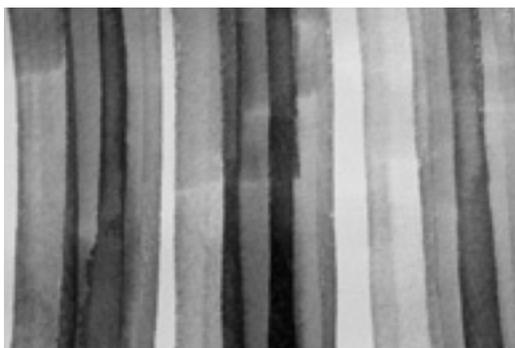


写真16

3. 色の濃度を変えながら、2.での行為を画用紙の左端まで繰り返し行っていく。(写真17)



写真17



写真18

4. 1枚の画用紙に縦の線を描き終えた後は、2枚目の新しい画用紙に異なる色4色で丸、三角、四角、曲線、縦横、ブロックの6種類の図形を描いていく。(写真18)
5. F6号の画用紙を横に半分に裁断したものの真ん中に位置するところにハガキサイズに型取り、切り抜くことでフレームを作り、縦の線で描いたものと図形を描いたもの、それぞれ、フレームをあて、面白い絵の部分を探し、切り取る。1枚につき2枚のハガキサイズのものが取れるため、合計4枚が出来上がる。(写真19、20)



写真19

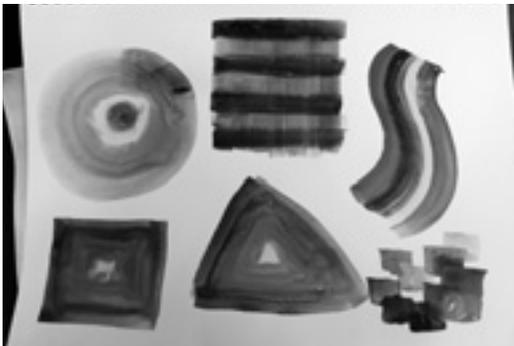


写真20

6. 色の重なりで出来た線と図形で構成された絵を基に、その絵からイメージする世界をつなげて、絵本のお話を創作していく。たとえば、線の重なりが、横の場合は、海の風景であったり、縦や斜めの場合は、雨が降っている時の様子として見立てることができる。見立てた絵に切り抜いた絵の他の部分をいろん

な形に切り抜き、貼り合わせることで、お話の一場面が登場する。たとえば、海に見立てた絵に船やカモメの形に切り抜いたものを貼り合わせることで、具体的な海の風景が生まれたり、雨が降っているように見立てた絵に傘をさした人の絵を貼り合わせることで、情緒的な一場面が表現できる。これらの絵の一場面をきっかけに、お話の前後をイメージしていくことで絵本の中身を創造していく。(写真21、22)



写真21

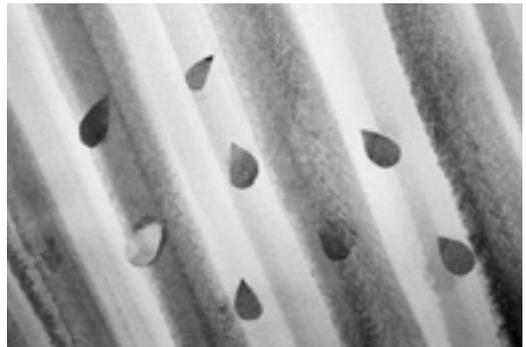


写真22

7. イメージが膨らんでくると、いろんな場面の展開が必要になる。その場合は、新たに場面の絵を追加したり、ハガキサイズの白地の画用紙に絵を切り抜いたものを貼り合わせて絵本の場面が作られていく。表紙になるページも色の構成で出来たものを文字や絵に切り抜き、貼り合わせることで絵本の表紙が完成する。(写真23、24)



写真23

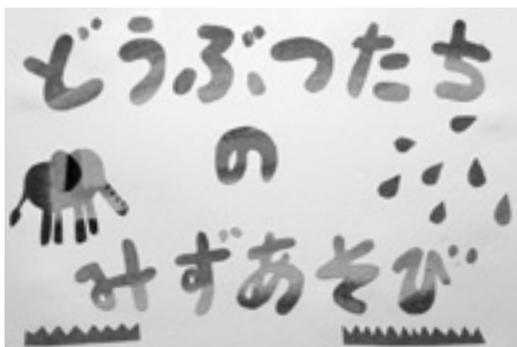


写真24

「手作り絵本の発表（映像機器使用）」では、学生自らが考えた絵本のお話の内容を基に、絵の場面ごとにスケッチブックに貼りこみ、絵本のようにページをめくれるように制作する。（写真25）

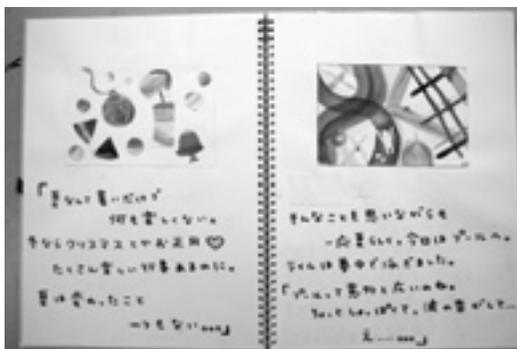


写真25

ページごとに貼りこんだ絵を1枚ずつデジタルカメラで撮影し、撮影データをパソコンに保存する。保存した撮影データは、パワーポイント

のライドショーで見れるようにしておく。発表は、スケッチブックに貼り込んだ絵本のお話をスクリーンに映し出した絵を見てもらいながら行っていく。お話の場面の展開に合わせてスクリーンの映像を切り替えていくようにする。

映像機器を活用した動画作品の制作1～3では、背景になる絵の上に動かす形を何回かに分けて撮影していく。場面によって背景の絵と動かす形を撮影し、最終的には場面を繋いで一つのストーリーを完成させる。シナリオは他の用紙に準備しておく。（写真26）



写真26

制作した動画作品の発表では、スクリーンに映し出した動画に合わせてシナリオを読み上げていく。

「視聴覚教材における ICT 機器の活用について」は、これまで述べた指人形劇やスケッチブック上に作った絵本の世界をデジタルビデオカメラで撮影し、効果的に子どもたちが鑑賞活動に参加できるよう機器の使い方や技術を、実践を通して学ぶ。例えば、指人形を撮影する場合、背景に周りの余計なものが入らないよう、色画用紙を配置したり、撮影する視点を変えることでスケール感の違いが出ることなど、実際に機器を扱いながら学んでいく。背景に余計なものが映っている場合と背景に色画用紙を配置した場合の違いは以下である。（写真27、28）



写真27



写真28

「ICT 機器を活用した教育実践1、2」では、撮影した指人形や手作り絵本の内容を保育、教育の現場でどのように活用し、子どもたちに興味、関心を抱かせるかを学生自身に検討させながら、最後に検討した内容の発表を行う。

考察

今回、視聴覚教材Ⅰ、Ⅱの授業において実施している指人形及び舞台と手作り絵本の制作過程と方法、技術について解説を交えながら記述したが、学生自身が制作した作品を教材としていかに活用していくのかといった方法についても課題が残る。デジタルカメラで撮影するような技術面やスクリーンに投影する際のプロジェクターの使用法や音響など、様々な知識も要求される。視聴覚教材Ⅰ、Ⅱの授業の時間数では、制作物と機材の使用法を含めて修得するには、限度があるため、他の教科での視聴覚教材の使用頻度も含め検討課題といえよう。

まとめ

近年、保育、教育の現場での視聴覚教材の活用としてデジタル機器をいかに効果的に活用していけるのかといった課題が、あらゆるところで議論されているように見受けられる。絵本や紙芝居、人形劇といった視聴覚教材は、現在も多く保育、教育の現場で活用されていると思うが、それらの教材をいかにしてデジタル機器に応用できるのかといった実践を伴った、活用方法が議論されていくことが、今後の保育、教育の現場における課題のように思われる。平成4年3月に各都道府県・指定都市教育委員会教育長あてに送付された文部省生涯学習局長通知の「新しい教育メディアを活用した視聴覚教育の展開について（報告）」でも教育現場での視聴覚教育メディアの活用についての提案を行っている。概要は以下の通りである。

今日、人々の生涯学習を支える基盤整備の一つとして、多様化・高度化する学習を支援するメディアの一層の普及・整備が求められている。マルチメディアやハイビジョンなどの新しい視聴覚教育メディア(以下「新しい教育メディア」という。)の活用を図ることは、生涯学習推進の重要な課題となっている。

一方、学校教育においても、教育方法の改善や児童生徒の自己教育力等に新しい教育メディアの活用が求められている。本報告は、生涯学習の振興に資するため、新しいメディアの教育利用の可能性や活用の在り方などについて整理し、学校教育及び社会教育の場における教育・学習方法の改善等を図ることを目的としている。本報告が、教育関係者をはじめ、民間企業等の教育メディア関係者に広く参考とされとともに、今後の行政当局の施策立案に反映されることを期待するものである。

この提案から23年が経過しているが、ICT機器の分野は目覚ましい発展を続けている。インターネットの普及はもちろんのことその周辺

機器や周辺環境は、あらゆる場所で進化を遂げている。一方で個人情報の漏えい問題や SNS を介しての対人トラブルなど、様々な課題も出てきている。教育現場においても、いかに子どもたちの個人情報を守り、適切な使用方法を伝え、有効に ICT 機器を扱っていくのが重要である。

以上であるが、視覚的に捉えている人間の認知感覚は、絵本や紙芝居のような紙媒体かテレビや電子黒板のようなデジタル媒体かでも大きな違いがある。大勢の人数で広い空間では、映像や音響など臨場感あるものの方が、優先されるが、逆に少人数で小部屋の中で絵本などの読み聞かせを行う場合は、紙媒体で語り手の生の声の方が子どもたちの心の中に残っていくように思う。現代の、多様化した保育、教育の現場において発達段階に応じた、教材の提供が不可欠であるが、視聴覚教材においても、保育者、教育者が、どのような教材を作成したり使用するかによって子どもたちの情操的発達に大きく作用するかを考えるべきである。

参考文献

- 「はらぺこあおむし」
作／エリック＝カール 訳／もりひさし
1976年 偕成社
- 「パパ、お月さまとって！」
作／エリック＝カール 訳／もりひさし
1986年 偕成社

引用文献

- 「新しい教育メディアを活用した視聴覚教育の展開について（報告）」文部省生涯学習局長通知 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/t19920331001/t19920331001.html 2015. 10. 28